

極秘

政務局  
第一課長

第二課長

電信寫

電信課長



大東亞省

昭和二〇

五二九五三

暗

西貢

三月三日

一六三〇

發

本省

三日一六四〇

着

松本大使

大至急

五 大東亞省各大臣宛  
（佛印處理ニ關スル件）

（佛印處理ニ關スル件）

當方交渉上ノ参考ニ供シ度ニ付米英軍カ「シリヤ」「マダガスカル」其ノ他師領ニ進駐セル場合以道方殊ニ申入聲明爾後ノ行政運営等ニ付御取調ノ上大至急電報アリ度

（了）

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

343

REEL No. A-1216

0486

アジア歴史資料センター

極秘

第一課長

第二課長

電信寫

電信課長

（印）

大東亞省

昭和二〇、五二九六二 暗 西頁 二月三日一六三〇發  
本省 三日二六〇〇着

軍光大東亞大臣

松本大使

大東亞 冬大至宛 第二一號 館長存照、大至急

（印）處理問題

貴部第三四號ニ關シ

本使ノ交渉據ニ付テハ軍部ト協議申ニシテ未タ最後的決定ヲ見届  
フサルモ大體富日夕刻總督ヲ召即ニ往訪會見シ先ツ全般ノ情勢ヲ  
説明シタル上斯クナレル上ハ日本府トシテハ共同防衛ノ精神ニ  
基キ總督ノ重大ナル決意ヲ要求セサルヲ傳ストノ趣旨ヲ達ヘ最高  
會議決定要領一ノ記ノ趣旨ヲ「エイドノモア」ニ作リタルモ  
（但猶豫時間ハ記載セス）ヲ請ミ開カセテ總督ノ熟考ヲ求メ總

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

344

REEL No. A-1216

0487

アジア歴史資料センター

秘

大東亞省

一 署名ヲ求メテ引渡クハコトトシ先方直ニ受諾ノ稟報ナキ時ハ二  
 時間ノ猶留ヲ與ヘ夫レ迄ニ回答ナキニ於テハ我方トシテ所望ノ措  
 置ヲ執ルヘキ旨ヲ達シテ本使館ニ引渡ケ回答ヲ待ラコトトスル  
 心算ナリ

二 決意要領ニシテ場合ノ武裝解除ノ點ニ付テハ軍司令官自リ之ヲ明示  
 セシメテ曉諭シテ受諾セシムル場合ニ於テハ軍ノ軍符ニ當リ給  
 付ヲ來スノミナラス此ノ點ヲ明確ナラシムル總督ノ意思表示ヲ  
 示シテ書付スルヲ要ストク切ナル要請アリタルニ付總督力要求受  
 諾ノ場合ハ稀印軍ヲ再編成スル爲武裝解除ヲ結スヘキ旨ヲ説明シ  
 總督ノ宣言中ニモ此ノ點ヲ明確ナラシムルコトヲ要ス

三 向此ノ點ニ付テハ軍部ヨリ中央ニ詳細連絡シタル上實行スルコト  
 ニ軍司令官トハ台セタルニ付委細軍部トハ連絡アリタシ

B 1.7.0.0 - 54

345

REEL No. A-1216

極秘

電信課長

（印）

大東亞省

昭和二〇 五二九五六

暗

西貢 本省

三月三日一九三〇發  
三日二一〇〇着

松本大使

重光大東亞大臣

（外務）

大東亞各大臣宛（第二二號）  
（印處理ニ關スル件）

大至急、館長符號

第一課長

宣言

第二課長

電信寫

一般情勢ノ重大性ニ鑑ミ印度支那總督タル下名ハ印共同防衛ノ  
 本精神ニ基キ佛印ノ防衛ヲ日本軍ニ委任スル目途ヲ以テ日本國政  
 ノ要求ヲ容レ流血ノ慘ヲ避クル爲佛印陸海空軍及武裝警察隊ヲ日  
 軍最高指揮官ノ命スル所ニ依リ武裝解除シ右ヲ再編成シ日本軍ノ  
 揮下ニ置クコトニ同意セリ  
 又鐵道海運通信等作戦上必要ナル機關ハ日本軍ノ管理下ニ置クコト  
 ニ同意セリ

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

346

極秘

電信寫

大東亞省

尙佛國人ノ生命財產及權益ハ敢ニ尊重セラルヘキ日本國政府ノ方ニ於テ佛國人及佛印全權能ハ拳ケテ日本軍ニ全面的且忠實ニ協力ヘキコトヲ要請ス  
若シ右要請ニ副ハスシテ發生スヘキ事故障害ニ對シテハ余ハ一切ノ責ヲ負ハサルヘシ

一九四五年〇月〇日

署

名

了

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

347

REEL No. A-1216

0490

アジア歴史資料センター

極秘

電信課長



大東亞省

昭和二〇 五月二九六一 晴 西貢 三月三日一九四五  
五二九六三 本省 三日二二三〇 看

松本大使

真光大使申入  
外務部 各大臣宛 第二三號 (館長符號、大至急、部外絶對秘  
(御印處理同趣)

二日總軍ニ於ケル中央既地連絡ノ會合ニ列席セル永井ノ報告中三ナ  
ル御参考迄左ノ通

一、中央トシテハ安南等ノ獨立阻妨ハ對「ソ」聯誼隊及一級對外諜報  
上ノ考慮ヨリ武力壓迫發動ト共ニ簡裝ヲ容レス實行セラレ度シト  
ノ意向ナル旨ヲ説明シタルニ總參謀長以下之ヲ了承シタリ尙信  
參謀長ヨリ右ノ目途トシテ至急準備ヲ進ムヘキモ實際同趣トシテ  
ハ發動ノ二、三日後トナルコトアルヘントテ了解ヲ求メル所アリ  
タリ

電信寫

第二課長

第一課長

東京四三七

S 1.7.0.0 - 54

348

REEL No. A-1216

0491

アジア歴史資料センター

極秘

電信寫

大東亞省

二、信參謀長ハ安南等ノ獨立ヲ願ハル時ハ當然交趾支那等ノ失地回復ノ  
 問題生スルモノト豫想セラルル處右ニ付テハ中央ニテ何等決定ナ  
 キヲ以テ當面之ニ觸ルルコトヲ避クル意旨ヲ導スル考ナルモ唯獨立  
 ノ正式承認ハ相當遲延スヘキニ付夫レ迄ノ間安南側ノ士氣ヲ銷沈  
 セシメサル爲メ「ゼスチニアヒト」シテ「ツーラン」兵ノ他ノ蒙  
 ナラサルモノハ適宜之カ返還ヲ考慮シ行クコト適當ナラスヤト考  
 ヘ居ル旨ヲ述ヘタリ

三、信參謀長ヨリ行政機關運管ノ暇ヲシテ左ノ趣旨ヲ説明セリ

(一) 總督府機關ハ概ネ現在ノ態存続セシムルコト

(二) 警備隊ハ憲兵隊ヲシテ代行セシメ鐵道通信等事ノ直接管理ス  
 ルモノニ關シ連絡將校ヲ入ルル外ハ總督府機關ニ單人ハ入レサ  
 ルコト

(三) 總督府首脳部理事長官等ノ職務ハ不收取不便府員ニ委嘱ス但大  
 使府員カ顧問ノ資格ニ於テ一時其ノ事務ヲ官掌スルノ形式ヲ採

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

349

極秘

電信寫

大東亞省

ルコト

(四) 其ノ他ノ下級ノ職務ハ原住民佛人等ヲ活用シ佛人ヲ排除シタル  
場合(例ヘハ各地市長等)ハ原住民ノ先任者ヲシテ事務ヲ代行  
セシメ顧問ヲ入レテ實質的指導ヲ爲スコト

(四) 安南王國等ノ理事長官ノ職ハ廢止シ其ノ機構ハ各王國ノ内閣ニ  
附屬セシムルコト

四一 放佛國人ノ取扱ニ付信參謀館ヨリ逐次與地ニ移動集結セシムル  
案ニテ研究中ニシテ第一着手トシテ先ツ佛國人ヲ河内、海防、「  
ピン」、順化、「ニヤトラン」、西貢、「ブノンベン」、「ピエ  
ンチヤン」ノ各都市ニ集結セシムルコトヲ考慮シ活ル旨進ヘタリ  
(了)

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

350

REEL No. A-1216



(原議用紙乙)

五郎ニ在任ルル能ハ、官憲(休戦委員)ノ如キ其ノ名跡ノ適合ハ  
 免メ引續キ其ノ他事務ノ執行ニハ異存ナシ治才ナリ。右ハ  
 適宜証明セラルルニ差支ヘキニ付為意。

西貢ニ付電セリ

S 1.7.0.0 - 54 352

(分類)

電送第 355 號

昭和二年三月四日 時 30 分發

電 信 案	件 名	宛	主任	主管
第一五二號	印 度 領 事	在 大 島 大 使	主任	主管
(附長番号)	記録件名	發	主任	主管
(附長番号)	(附長番号)	重 光 大 臣	主任	主管

S 1.7.0.0 - 54 351

昭和二年三月四日 起草

REEL No. A-1216

政  
務

(分類)

電 信 案	外 務 省	在 大 臣 在 任 在 任 大 使 宛 電 報 才 一 五 二 号 特 電  伝 第 三 五 五 九 号 全 文	暗	電送第 3560 號	主管
			平路	昭和 20 年 3 月 4 日 時 分發	電信課長
			第 二 二 號	件 名	宛
			(館長符号) 緊急	仙 印 丹 理	西 貢 杉 本 大 使
				記録件名	發
					重 光 大 臣

電信課長

主任

昭和 20 年 3 月 4 日 起草

記帳済

(日本標準規格 B5)

1.7.0.0 - 54

353

REEL No. A-1216

0495

アジア歴史資料センター

自一三六八二  
至一三六八四 暗 昭和二十年三月四日 二二時 総編

在支 谷 大使  
在タイ 山本 大使  
在緬 山田 大使  
在緬 石射 大使

重光 大東亞大臣

●印問題ニ關スル件

台第三號 部長付 大至急

外務大臣 駐印大使宛第一四一號及第一四六號ヲ關シ  
印度支那方面ニ關シ佛印當局カ共同防衛ノ精神ニ依リ我カ要求ヲ  
拒絶シ我ニ於テ武力處理ヲ豫備ナクセラレタル場合ニ於テハ  
報ハ軍ノ電報ニ依リ御承知相成ル管ニ直ニ責任國政府(支、泰、  
ビルマ、暹)ニ對シ我措置ニ付テ別ニ電報スル帝國政府聲明ノ筋  
ニ依リ屢次ノ電報ヲモ御參照ノ上充分説明アリ度ク尚佛國人、佛  
國權益等ニ對スル信託ニ付 貴ニ電報スル所ニ從ヒ帝國ノ措置ニ同  
調方御中人相成ヌ

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 64

354

向在「タイ」大使ニ於テハ加電台第二二二號印地處理ニ件フ對「  
 イ」施策ノ件御言ミノ上應酬相成度シ  
 又在文大使ニ於テハ加電台在文大使宛館長付第一二二號印地處理ニ  
 作フ廣州為租借地處理ニ關スル件ニ付テ國民政府ニ中人レ行政權  
 施行ニ付テ廣州為ニ過當ノ派員ヲ行フ極御交渉アリ度  
 再申ス迄モ無キ候作ラ本件ハ作戦ト關係アル高度ノ國家機密ナル  
 付企圖秘匿方特ニ御留意相成度（本電以外ノ電報ハ貴使限リノ  
 食ミトシテ塚メ内報シ區クモノナルニ付軍機ヨリノ傳習アル迄ハ  
 部外秘トセラレ度ク特ニ爭前軍機ト打合ヲ要スル事項ニ付テハ當  
 方ヨリ軍電ニ依リ承知スヘキ旨連絡アリタル建前ニテ措置セラレ  
 度シ）  
 本電宛先 在文、タイ、滿、緬各大使  
 参考トシテ在函真松本大使へ轉電セリ  
 参考トシテ外務大臣ヨリ在蘇大使、在獨大使へ轉電セリ

（東京二〇九）

電信寫

極秘

極秘

電信寫

自一三六六九  
至一三六七一  
昭和三十四年三月四日廿一時  
分  
總

西貢(大)、支、滿  
タイ、ビルマ宛

電光大南軍大臣

佛印處理ニ伴フ聲明ニ關スル件  
合第二二二號(館長符號抄、大至急、國家機密抄)  
佛印處理ニ伴リ佛印カ全面的ニ我カ要求ヲ受諾セル場合ニハ帝國  
政府聲明ハ之ヲ行ハス必キ要シ且シ此地ニ於テ佛側ト協議ノ上適宜  
當局發表ヲ行フコトトシ佛印カ我カ要求ニ應セサル場合ニ於テハ  
別電合第二二三號ノ趣旨ニ依リ帝國政府聲明ヲ行フコトニ決  
議報告トシテ決定ヲ見タリ  
本電宛先 西貢(大)、支、滿、「タイ」、「ビルマ」

東京二〇九

B 1.7.0.0 - 54

356

一三六八一  
昭和三十四年三月四日廿一時  
分  
南

在支 各大使

電光大南軍大臣

廣州灣ニ關スル件  
第一一號 大至急 館長符號  
佛印處理ニ伴フ廣州灣措置ニ關スル件ニ付テハ同地帝國領事館ノ  
暗號微弱ナル爲金運祕限上同館ニ對シテハ本館又ハ在外公館ヨリ  
一切電報ヲ必要ナル事項ニ付テハ軍電ニ依リ承知セフシムルコ  
トトシアルニ付爲念

東京二〇九

B 1.7.0.0 - 54

357

REEL No. A-1216

0498

アジア歴史資料センター

電信寫

自一三六六四  
至一三六六六  
昭(晴)和 廿年 三月 四日 廿時 分南防

在西貢 松本大使  
佛印處理ニ伴フ對「タイ」海策ニ關スル件  
第三四號 館長符號 大五餘 國家機密抄  
在「タイ」大使宛往電第一〇號ニ關シ  
本件對「タイ」海策方針ノ原案ニハ佛印武力處理ノ場合「タイ」トノ關係方面ニ於テ日「タイ」兩軍間ニ紛争ヲ惹起スルカ如キコト無キ儘置意スヘントノ趣旨ノ一項アリタルカ就中ニ對シ餘リニ干渉ガマシキ印象ヲ與フルコトヲ考慮シ之ヲ削除シタルカ右紛争ノ防止ハ日「タイ」關係上重要ナルニ付我部設ニ對シ紛争防止方微底ニフルル儘備部部長ニ要請ニフレ度シ一我部部長管下ノ關係部職員「タイ」國軍隊ニ對スル注意方ニ付テハ山本大使ニ電報シ置キタリ

(東京1102)

S 1.7.0.0 - 54

358

電信寫

一三六九二  
一三六九三  
昭(晴)和 廿年 三月 四日 廿二時 廿分 總

在支 谷大使  
廣州灣租借地處理ニ關スル件  
第一三號 館長符號 大五餘  
往電第一二號ニ關シ  
佛印處理ニ伴ヒ廣州灣租借地ニ於ケル措置ニ付テハ佛印ニ於ケル措置ニ準スルコトナリ居ル處帝國トシテハ大東亞共同宣言及對支新政策ノ大局的見地ヨリ國民政府ニシテ自主的ニ同租借地ノ行政ヲ接收スルノ希望アルニ於テハ之ニ順スルヲ適當ト認ノ既ニ電報ノ通り最高戰爭指導會議ニ於テ決定ヲ見タル次第ナリ  
就テハ貴大使ハ佛印カ我カ要求ニ應セサル旨ノ確報ヲ總軍司令官ヨリ受ケタル際ハ直ニ國民政府ニ對シ廣州灣租借地處理ニ關スル前記帝國ノ意旨ヲ轉傳達相成度ヲ國府側ニ於テ同地行政接收ノ希

電光大臣 電報大臣

(東京1102)

S 1.7.0.0 - 54

359

電信寫

秘

自一三六六一  
一三六六一  
一三六六一  
昭和三十四年三月四日廿  
時 分  
南

在タイ 山本大使

軍光大臣

佛印通電ニ伴フ對「タイ」關係ニ關スル件

第一一號(局長符號、大臣兼) 國家機密扱

往電第一〇號ニ關シ

本件對「タイ」關係方針ノ原案ニハ佛印武力威嚇ノ場合「タイ」トノ關係方面ニ於テ日「タイ」兩軍官ニ紛争ヲ惹起スルカ加キコト無キ様投軍ニ於テ留意スヘントノ趣旨一ノ一項アリタルカ統帥ニ對シ餘リニ干渉ガマシキ印象ヲ與フルコトヲ考慮シ之ヲ削除シタルモ右紛争ノ防止ハ日「タイ」關係上重要ナルニ付「タイ」側現地軍官意ニ對シ紛争防止方徹底ノ措置ヲトル様「タイ」側政府ニ要請セラルルト共ニ該總隊長管下ノ關係部隊ニ對スル注意方同部隊長ニ要請セラル度(備録)ニ付テハ松本大使ニ電報シ置キタリ

1103

望アルニ於テハ國府側ノ準備成リ次第右要望ニ應シタキ所存ナルニ付結果至急國電相成度尙其ノ場合帝國ニ於テ一旦接收セル行跡權ヲ改メテ國府側ニ移管スル形式ニ依ルコトナク佛側行跡權排除セフレタル事實ニ鑑ミ國府ニ於テ將來同租借地ノ回收ヲ目途トシテ自主的ニ之カ行政ヲ接收スル準備ヲ取り廣南省官憲ヲ廣州灣ニ派遣シテ行跡ヲ行ハシメタキ所存ナルニ付御含ミアリ度  
是而國府ノ行政接收完了迄ノ期間ハ軍ニ於テ管理スルモノト承知アリ度爲念  
總考トシテ西貢(大)へ轉電セリ

1109

電信寫

一三六六七  
一三六六八  
昭和二十年三月四日廿時  
分  
主

在印度 松本大使  
佛印處理決定ノ解釋ニ關スル件  
第九三號 領長符號抄 大至急  
永井事務官へ甲斐ヨリ  
佛印當局ニ對スル我方ノ要求事項ノ何ニ於ケル「帝國ノ要請」カ  
前記要請ナリヤ否ヤノ點依然未解決ニテ此ノ點更ノテ最高戰爭權  
導會議ニ於テ思想統一ノ要アルモノト認メ居レハ處軍側ニ於テハ  
一應決定原案通りノ解釋ナルニ於テハ差支ヘ無キ旨申延ヘ居ル趣  
ニ付前記又ハ他ノ一切ノ要請等記載スルコト無ク唯單ニ要請ニ定  
冠詞ヲ附スル儘ニテ處理シ尚カルル様致度

CPA 1101

S 1.7.0.0 - 54

362

電信寫

一三六七二  
一三六八〇  
昭和二十年三月四日二時  
分  
主

廣文、文、滿大  
佛印處理ニ付テ要請ニ關スル  
會第二二三號(別電) 國家總務省 領長符號抄 大至急  
府廳ハ印度支那ノ共同防衛ニ關スル佛蘭トノ約定ニ基キ、終始一  
貫印度支那ニ於ケル佛蘭國軍艦隊ト協力シ同方面ノ防衛ニ當  
リ來レムニ戰艦ノ進移ト共ニ佛蘭國出先官艦ノ願度ハ擴大變更ヲ  
來シ米英等ノ印度支那軍艦ニ對シ共同防衛ノ實ヲ示ササルニ至  
リ  
我々代表ハ之ニ對シテ果大反省ヲ促シタルニ其ノ致ナキヲ以  
テ佛蘭軍艦ハ目前ニ迫レシニ對シテ單獨ニ印度支那ヲ防衛セサ  
ルヘカフナルニ立テ置レシ佛蘭國軍艦ハ印度支那ノ防衛ノ爲敵  
性官艦ヲ排除シ我々協力スル現地軍艦ニハ援助ヲ與ヘ以テ相共ニ

CPA 1101

S 1.7.0.0 - 54

363



協力ヲ所期ノ目的ヲ達セントスルモノナリ  
以上ハ軍事上已ムヲ待ス取リタル處置ニシテ且之ヲ其ノ必要ナル  
最少限度ニ止ムルモノナリ從テ帝國ハ何等印度支那ニ對シテ領  
土的金圖ヲ有スルモノニ非ルハ勿論ニシテ東亞侵略ノ勢力ニ對シ  
其ノ鄰土ヲ防衛セントスル印度支那ノ住民ニ對シテハ有ラズル  
助ヲ許セサルヘク久シキニ亙リテ彈壓セラレタル後等ノ民族的獨  
立實現ノ與違ハ大東亞共同宣言ノ精神ニ基キ全體的ニ之ヲ支援ス  
ルモノナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

(東京二〇九)

S 1.7.0.0 - 54

364

電信寫

一三六九〇  
一三六九一  
昭和三十二年三月四日廿二時  
分

支 谷 大使  
タイ 山本大使

重光大藏大臣

佛印閣廳ニ關スル件  
合第六號 館長符號、大至急  
往電館長符號合第三號ニ關シ  
佛印館拒否ノ確報ハ殿部部長ヨリ實地軍備へ電報シ貴大使へ轉  
報セララル手筈ナリ松本大使ヨリモ貴大使宛爲念記號ヲ以テ  
佛印館受諾ノ場合YYYYY拒否ノ場合NNNNNN(音譯ア  
ルヘキモ責任國政府ヘノ説明及申入其他ノ措置ハ佛印館拒否ノ  
旨前記電報ニ依リ確報アルヲ俟テ開始セラレ度  
本電宛先 南大、「タイ」大

(東京二〇九)

S 1.7.0.0 - 54

365

一三六九四  
一三七〇八  
昭和三十二年三月四日二時  
分  
主  
總

支 谷 大 使

重光大東東大臣

佛印處理ニ件フ在支佛國官民權益取扱要領  
第一五號(別覽、備長符號、大至急)

一、佛印當局カ全面的ニ帝國ノ要求ヲ受諾シタル場合ハ是當リ格別ノ措置ヲ執ラサルモ防諜ニ關シテハ遠慮ナキヲ期スルモノトス

但シ軍隊及武裝施設ノ處理ハ佛印ニ於ケル場合ニ專ス

二、佛印當局カ帝國ノ要求ヲ受諾セサル場合ト雖モ佛印官民及權益ノ取扱ハ事情許ス限リ寛大ニスルコトトシ左ニ務ル

(1) 外交官領事官ニ對スル取扱

1、國民政府ヲシテ暴行執行停止ノ通告ヲ爲サンメ同時ニ

電信寫

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

366

當該地所在ノ日本外交機關ヨリモ佛印今舊設佛國公館ノ職務執行ヲ認メ得サル旨通告ス

2、事務所ノ封印公文書ノ押收等ハ行ハス

3、事務所、官邸又ハ住宅ノ電話ハ切斷セス

4、無電報信機ノ使用ハ之ヲ禁止シ右機機ハナシ得ル限リ佛印ヲシテ自發的ニ提出セシムル如ク出賃スルモノトス

5、原則トシテ往來ノ居所ニ引續キ居住セシム

6、食料、燃料等ノ配給ハ往來通リトス

7、外出ハ自由トスルモ佛印人以外ノ者トノ接觸ハ自衛セシムルコトトシ右ニ違背スル場合ハ監視付ノ押留ヲ行フコトアル可キ旨豫メ通告ス

8、暗號電報ノ收受ハ之ヲ禁止シ平文電報及郵便ハ檢閲ノ上差支ナキモノニ限り之ヲ許可ス

9、資産凍結、預金引出制限等ヲ行ハス

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

367

10、外交官領事官ニ對スル措置ハ總テ支那側ニ於テ實施ノ  
 趣前ヲ取ルモノトス  
 (甲)一總佛國人ニ對シテハ格別ノ措置ハ取ラサルモ防諷ニ關シ  
 テハ遺漏ナキヲ期スルモノトス  
 但シ本件措置ヲ理由トシテ故ラニ諷刺容疑者等ノ一齊檢査  
 等ハ行ハス  
 (乙)中立國政府ノ利益保護ハ認メサルモ領事タリレモノ等カ佛  
 國居留民ノ代表トシテ居留民全體ノ生前利益其他ノ行政事  
 務ヲ代行シ支那側又ハ日本側ニ接洽シ利益代表的職務ヲ行  
 フコトヲ認メ支ナシ  
 (丙)武裝解除ノ際ハ一在支佛國軍隊ハ悉ニ稅券送付ノ結果其ノ  
 存在ノ基礎ヲ失ヒ佛印軍ニ編入セラレ佛印移送ノ便ヲ得テ  
 唐リタルモノナル處今同佛印當局ハ印度支那共同防備ニ  
 スル帝國ノ要求ヲ拒絕シ在佛印佛國軍隊ハ武裝解除セラレ

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

368

タルニ依リ在支佛國軍隊ヲモ武裝解除スルコトナリタ  
 ル旨通告ス  
 (2)軍隊及武裝機關中武裝解除ノ際抵抗セル者ハ停處トシテ  
 拘留シ然ラサル者ハ一級人トシテ取扱ヒ自治的規律ノ下  
 ニ引續キ稅ネ從來ノ場所ニ集團居住セシム  
 但シ必要アル場合ハ其居住行動等ニ制限ヲ加フルコトア  
 リ拘留セル艦船ノ乗組員ノ取扱亦右ニ準ス  
 衛生生活ハ佛國所有ノ特別圓資金ヨリ送金ス  
 (丙)一般極端ニ對スル取扱  
 1、公私財産及一般權益ニ對シテハ財産ニ準シテ取扱フコ  
 トナク防諷上絕對必要ナルモノハ例ヘハ通信社、電報、  
 放送局等ニ限り我方ノ管理下ニ置キ爾餘ノモノニ付テ  
 ハ格別ノ措置ヲ取ラサルコトトス  
 2、佛國新聞、電燈電車公司等ニ付テモ差當リ我方乃至中

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

369

電信寫

一三六六〇	昭和 廿年 三月 四日 十九時 五十分
號	時
符	主

在 西 貢 松 本 大 使  
 傳 印 關 關 ( 軍 機 員 ) ニ 送 スル 件  
 第 三 五 號 艦 長 持 歸 至 急  
 本 報 總 務 長 石 澤 局 長 日  
 傳 印 關 關 ノ 城 合 議 要 「 ポ ス ト 」 ヲ 占 ム ヘ キ 軍 機 員 ノ 件 ニ 付 テ ハ 該  
 軍 機 員 日 々 密 電 線 長 及 水 井 學 務 官 ニ 通 シ 敵 キ タル 趣 ノ 處 實 見 知  
 函 電 ア リ 度

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

371

國 僑 ノ 監 視 推 導 ヲ 強 化 スル ニ 止 メ 出 來 待 ル 限 リ 從 前 ノ 檢  
 精、職員ヲ活用スルニ努ム  
 8、一般權益ニ對スル措置ハ原則トシテ中國僑ニ連絡ノ上  
 日本僑ニ於テ行フ建前トス  
 (備考)  
 一、本件持歸ノ變動ハ在印陸軍最高指揮官ヨリノ確報ヲ俟  
 テ之ヲ行フモノトス  
 二、支那派遣軍總司令官右權職ヲ受ケタル時ハ直チニ之ヲ  
 係機關(在支大使及在支海軍最高指揮官)ニ通報スルモ  
 ノトス  
 轉電先 北京、上海、廣東  
 (但シ追テ指示ヲ俟テ轉電ノコト)

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

370

極秘

一三六八八  
一三六八九  
昭和 廿年 三月 四日 廿二 時  
分 總 總

電信寫

在支 谷大使  
佛印處理ニ伴フ權益處理ニ關シ國民政府へ申入方等ノ件  
第一四號 前長符號 大酒泉  
往電道長符號合第三號ニ關シ  
佛印處理ニ伴フ在支佛國官民權益取扱要領一陸海外大電道四電道  
第一別電第一五號ノ通りナルニ付右ニ依リ國民政府ニ所要ノ内而播  
導乃至協力ヲナサレ度尙右取扱要領ノ具體的細目ニ付テハ總軍及  
艦隊ト協議ノ上貴大使ヨリ北京、天津、上海等ニ必與ナル訓令ヲ  
發出セラレタク又漢口、青島等ニ對シテハ本件企圖秘匿上事前訓  
達ヲ爲ササルニ付之等地區ノ佛國官意ニ對スル處置ハ自然他地ニ  
比シ遲延スヘク又國府側ノ處置ハ我方處置ニ比シ遲延スヘキ處之  
等ノ點ハ貴大使ニ於テ陸海軍ト協議ノ上可然御措置アリタシ  
別電ト共ニ北京、上海、廣東へ轉電セリ

(東京二〇九)

S 1.7.0.0 - 54

372

自一三六八五  
至一三六八七 昭和二十年三月四日 二二時三〇分

重光大東亞大臣

文 秘

廣州租借地處理ニ關スル件  
第一二號 前長符號 大酒泉  
佛印カ我カ要求ニ應セサル場合廣州萬租地ニ付テハ印度支那政  
務處理要領ニ依リ措置スルモ國民政府ニシテ自主的ニ右行爲ノ接  
收ヲ希望スル場合ハ帝國之ニ同意スルモノトス  
參考トシテ西大、「タイ」大、緬大、滿大へ轉電セリ  
參考トシテ外務大臣ヨリ蘇大、獨大へ轉電セリ

S 1.7.0.0 - 54

373

(東京二〇九)

極秘

昭和二十一年三月四日  
主官 南政  
河内 三月四日 四四一號  
本省 六日 二〇〇九  
西村事務局長

二月二十二日東京州親日獨立団体各派代表ハ河内市ニ會合既存ノ同  
系統団体ヲ台シテ「印度支那ノ獨立達成」ト「對日協力」ヲ綱領ト  
スル「大越國家聯盟」(代名)ト稱スル單一ノ組織ヲ結成セリ  
新編ハ執行委員一二名諮問委員一二名ヲ以テ構成セラレ本部ヲ河内  
ニ有ス  
四六ハ轉送セリ

電信寫

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54 374

電信寫

昭和二十一年三月五日 二一時 分 南政

在面實 松本大使  
佛印兩國ニ關シ受諾ノ機會ノ證明ニ關スル件  
第三八號 館長符號 緊急  
實電第二二二號ニ關シ

本件交渉振ハ世界政局ニ對スル將來ノ我カ立場ニ影響スル所大ナ  
ルハ勿論ニ難カラサル所ニテ即チ戰局ノ印度支那ニ及ビタル機  
狀ニ對シ共同防衛協定ノ締結ニ從ヒ一層ノ協力ヲ要スルノ餘餘  
無キニ至リシコトヲ肯子トシ將來先方ノ宣傳ニ餘地ヲ與ヘサル機  
轉ニ注意スルノ要アルハ申述モ無キニ付右記上共御會アリ度シ  
先方カ受諾セル場合ノ詳細モ以上ノ趣旨ヨリ佛印兩國ニ於テモ亦大  
局的見地ヨリ共同防衛強化ノ具體措置ニ應ジタルコトヲ肯子トス  
ルコト適當ニシテ少々共體團ノ佛印ニ對スル要求カ不當ナリシモ  
ノトイフノ印象ヲ與ヘサル機宜ノ要アリ御申述ノ宜旨案ナルモ

東京 二〇九

S 1.7.0.0 - 54 375

REEL No. A-1216

ノカ假ニ總督ノ部下各機關並ニ一般住民ニ對シテ設ケラルル布告  
ナリトスルモ對外的ニ組織セララルル慎重トモ其ノ内容ハ慎重  
ニ研究ノ要アルニ付當方ニ於テモ適宜研究ノ上擬電ス

第三〇二號

S 1.7.0.0 - 54

376

REEL No. A-1216

0508

アジア歴史資料センター



日一三七〇  
一三七一八  
昭和二十年三月五日四時  
總務

在タイ 山本大使  
真光大東亞大臣

佛印處理ニ件ヲ對「タイ」施策ニ關スル件

第一〇編 大主編 館長符號

任電館長付統台第三編ニ關シ

二月一日最高會議報告トシテ確定ヲ見タル佛印處理ニ件ヲ對「タイ」

施策ノ件ハ左記ノ通りナリ「タイ」政府ヨリ本件ニ關シ失

地回復ノ要益アル場合ニ於テ慎重考究ノ上之ヲ考慮スル意圖ナ

ルコト別ニ電報スル通りナリ

向本施策方針ノ内容ハ埒地海軍部ニ對シテハ電報セサル趣ニ付其

大使ヨリ海軍武官ニ通報セラレ度

帝國ノ「タイ」國ニ對スル態度ハ既定方針ニ據リ特ニ其ノ動搖

記

CH 1104

S 1.7.0.0 - 54

377

REEL No. A-1216

0505

アジア歴史資料センター



<p>一、 現政府ヲ支援シ其ノ政治力強化ヲ圖ルト共ニ此ノ際特ニ對「タイ」後助ノ強化ニ努ム</p>	<p>二、 佛印處地發動後機宜大使ヲシテ帝國ノ佛印處地ノ真意瞭ニ帝國「タイ」國ニ對スル態度ハ從前ト何等變化ナク其ノ自主獨立ヲ支援ニアル旨ヲ説明セシム</p>	<p>三、 其ノ際併シテ大使ヲシテ所要ニ應ジ</p>	<p>四、 日本軍ノ行動ニ伴ヒ「タイ」領内ニ進走スルコトアルヘキ佛印軍隊等ノ武装解除方</p>	<p>五、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>六、 要請セシム</p>	<p>七、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>八、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>九、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十一、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十二、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十三、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十四、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十五、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十六、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十七、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十八、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>十九、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>	<p>二十、 佛印處地ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物量交流及ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル</p>
--	--	----------------------------	---	--	-----------------	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

（東京1104）

S 1.7.0.0 - 54

378

電信寫

一三七一九  
一三七二三  
昭和 廿年三月五日 四時  
分線主  
管線機

在滿大使  
在タイ大使  
在ビルマ大使

在光大使 昭和大使

印印處理ニ係リ佛國國民權益取扱ニ關スル件  
台第五號 局長持書 照會 國家機密抄

往電留長持書台第三號ニ關シ

佛印處理ニ係リ在滿留連、「タイ」及「ビルマ」國佛國國民權益取扱ニ關シ左ノ通一隨海外大使館西省經略課

一、佛印當局カ全面的ニ佛國ノ要求ヲ受諾シタル場合ハ差當リ格別ノ措置ヲ執フサルモ防諜ニ關シテハ通商ナキヲ期スルモノトス  
二、佛印當局カ佛國ノ要求ヲ受諾セサル場合ト雖モ佛國國民及城鎮ノ取扱ハ事情許ス限リ寛大ニスルコトトシ各當該國政府ニ請シ

東京二〇九

6 1.7.0.0 - 54

379

左記ノ措置ヲ取ルコトヲ要請ス  
(1) 外交官持書官ニ對スル取扱

1. 各當該國政府ヨリ職務執行停止ノ通告ヲ為ス

2. 事務所ノ封印公文書ノ押收等ハ行ハス

3. 事務所ノ官邸又ハ住宅ノ電話ハ切斷セス

4. 無線電信機ノ使用ハ之ヲ禁止シ右邊被ハナシ得ル限り節

制ヲシテ自發的ニ提出セシムル如ク衝置スルモノトス  
5. 原則トシテ從來ノ持所ニ引續キ居住セシム

6. 食料、燃料等ノ配給ハ從來通りトス

7. 外出ハ自由トスルモ佛國人以外ノ者トノ接觸ハ自製セン  
ムルコトトシ右ニ違背スル場合ハ監視付ノ押留ヲ行フコト  
アル可キ旨豫メ通告ス

8. 暗號電報ノ發受ハ之ヲ禁止シ中文電報及郵便ハ檢閲ノ上  
英文ナキモノニ限リ之ヲ許可ス

東京二〇九

6 1.7.0.0 - 54

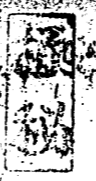
380

一、資産凍結、預金引出制限等ヲ行ハス  
 二、特種人ニ對シテハ格別ノ借附ハ取フサルモ防備ニ關シテハ遺漏ナキヲ期スルモノトス  
 三、但シ本件措置ヲ理由トシテ故ラニ誤解容疑者等ノ一尙侵襲等ハ行ハス  
 四、中立國政府ノ利益保護ハ認メサルモ領事タリシモノ等カ他國居留民ノ代表トシテ居留民全體ノ生計維持其類ノ行政事務ヲ代行シ利益代表的職務ヲ行フコトヲ認メ差支ナシ  
 五、公私ノ財産及機密ニ付テハ原則トシテ格別ノ借附ヲ取フス  
 (備考)  
 六、本件措置ノ發効ハ在佛印證 最高指揮官ヨリノ添報ヲ俟テ之ヲ行フモノトス  
 七、關東軍司令官、在「タイ」國及「ビルマ」國陸軍最高司令官右確報ヲ受ケタル時ハ直チニ之ヲ關係國駐劄帶備大使ニ

東京二〇九

通報スルモノトス  
 本電宛先 「タイ」大、緬大、滿大

東京二〇九



自一三七一  
至一三七一八  
昭和三十二年三月五日四時  
在タイ 山平大使  
真光大東亞大臣  
佛印處理ニ件ヲ對「タイ」施策ニ關スル件  
第一〇編 大主 誦長符號  
任電通長付統台第三編ニ關シ  
三月一日最高會議報告トシテ確定ヲ見タル佛印處理ニ件ヲ對「タイ」施策ノ件ハ左記ノ通りナリ（「タイ」政府ヨリ本件ニ關シ失地回復ノ要益アル場合ニ於テハ慎重考究ノ上之ヲ考慮スル意圖ナルコト別ニ電報スル通りナリ）  
尙本施策方針ノ内容ハ現地海軍側ニ對シテハ電報セサル趣ニ付眞大使ヨリ海軍武官ニ通報セラレ度  
記  
帝國ノ「タイ」國ニ對スル態度ハ既定方針ニ據リ特ニ其ノ動搖ヲ

（東京三〇九）

四 佛印處理ニ件ニ對シテ「タイ」國間ノ物量交流並ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル  
三 佛印處理ニ件ニ對シテ「タイ」國間ノ物量交流並ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル  
二 佛印處理ニ件ニ對シテ「タイ」國間ノ物量交流並ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル  
一 佛印處理ニ件ニ對シテ「タイ」國間ノ物量交流並ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル  
（日）日本軍ノ行動ニ件ヒ「タイ」領内ニ進走スルコトアルヘキ佛印軍隊等ノ武装解除方  
（日）佛印外交官佛國人ノ處理等ニ付帝國ト同調方  
要請セシム  
佛印處理ニ件ニ對シテ「タイ」國間ノ物量交流並ニ交通連絡ノ促進ヲ圖ル  
參考トシテ轉算先 南大、細、西大

（東京三〇九）

二月十六日 谷川新築ニ係ル「ドブール」及  
其(因際等)  
ソソセー「ハ」西貢ニ於テハ日米關係ニテ湖際セラレタルニ  
河川各紙ニハ掲載セラル「ドブール」行拒否ノ種  
種等ハ公衆掲載セラルルニ在リ  
六年度問題ハ二月七千万円程度ニテハ絶対不足ノ実情  
ニシテ戦前ノ現段階ニ於テ此ノ上ノ遷延ヲ許ササルニ付  
二月三十四日  
本年第一四半期 十億 五千万円 (毎月五千万)

(原議用紙乙)

S 1.7.0.0 - 54

386

五

(分類) 3613

電 信 案 外 務 省	電送第 3612 號	主管
	昭和20年3月5日午後8時一分發	主任
件名	佛印情勢	在物 大島 大臣 在ノ 佐藤 大臣
記録件名	( )	重光 大臣
台第 〇二八五 號	( )	( )

佛印情勢・南支其・法・米關係在ノ通  
トブールニ關スル記事ハ從來佛印・米ヲ掲載シ

昭和二十年三月五日 起筆

5 22

(日本標準規格B5) 385

S 1.7.0.0 - 54

REEL No. A-1216

電信案

外務省

暗殺犯人ハ仙印側ニテ抑留シ未タレル也今般仙印總督  
 如叙放<sup>方</sup>決定セル如<sup>旨</sup>形方<sup>本</sup>在叙放<sup>確</sup>確<sup>証</sup>ヲ得<sup>テ</sup>テ<sup>モ</sup>抹殺  
 中<sup>止</sup>

(之ヲ叙放ニ依リ重慶側ハ如所ヲ傳ケルハシトテ)

電信案

外務省

二時類也<sup>ニ</sup>来<sup>テ</sup>テ<sup>モ</sup>強<sup>シ</sup>テ<sup>モ</sup>更<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>中<sup>ナ</sup>リ  
 三敵飛行機、仙印立艦ニ際シ仙印側、俾<sup>ル</sup>トモ<sup>ル</sup>米国人<sup>ハ</sup>船<sup>ヲ</sup>  
 士ハ仙印側ニ在<sup>テ</sup>頌<sup>ル</sup>平厚<sup>ク</sup>庇<sup>シ</sup>護<sup>シ</sup>居<sup>リ</sup>(中ニハ浦外<sup>ヘ</sup>地<sup>ヲ</sup>亡<sup>セ</sup>シ<sup>メ</sup>タル  
 モ<sup>ノ</sup>モ<sup>リ</sup>如<sup>シ</sup>)日本軍、引渡<sup>ス</sup>要求<sup>ニ</sup>対<sup>シ</sup>テハ若年<sup>初</sup>迄<sup>ハ</sup>概<sup>シ</sup>テ<sup>モ</sup>田<sup>崎</sup>  
 徳<sup>ニ</sup>タルモ其後ハ牙門<sup>ノ</sup>為<sup>シ</sup>一時身板<sup>ヲ</sup>引<sup>渡</sup>ス<sup>ル</sup>ニ<sup>思</sup>ギ<sup>ス</sup>本年  
 一月<sup>上</sup>旬<sup>迄</sup>艦<sup>ヲ</sup>際<sup>ヲ</sup>收<sup>容</sup>セ<sup>ル</sup>モ<sup>ノ</sup>名<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>モ<sup>ノ</sup>引<sup>渡</sup>ヲ<sup>拒</sup>否<sup>シ</sup>居<sup>レ</sup>リ  
 四汪精衛<sup>ト</sup>重慶<sup>ニ</sup>脱<sup>出</sup>シ河<sup>漢</sup>ニ在<sup>テ</sup>暗<sup>殺</sup>セ<sup>ラ</sup>レ<sup>ル</sup>曾<sup>中</sup>鳴<sup>ノ</sup>

(原議用紙乙)

ニ於て先着已リテ御不致方ニ於テ折衷ノ措置ヲ講ス  
 物合ハハ 改則及、トールニ於テ相立出滞ナシ道清ヲ為ス  
 ヘント迄考セラルルニ付 貴方後ニ於テ左ノ通 措置セ  
 るに渡  
 (一) 佛印ノ一 般情勢 (殊ニ佛印側ノ不信態度ノ素ヲ然方  
 ノ企圖ニム 一 印綱ルニトイフ) ヲ 蘇北 寄附 往後 爲  
 一七九号 及 奉命 往後 爲 一七号 等ニ 往後 爲 命

S 1.7.0.0 - 54 390

(分類)

五

電 信 案	往 電 券 一 四 一 号 之 圖 ニ	暗 電 送 第 35113 號	主管
		昭和 10 年 3 月 5 日 時 分 發	主任
電 信 案	機 密 保 持 ノ 必 要 上 、 廿 日 、 及 在 改 者 公 使 ニ 奉 命 ニ 向 身 内 報 シ 兼 ヌ ル 次 第 ナ ル カ 佛 印 側 カ 要 求	件 名	宛
		佛印處理ノ圖ニ付	在獨 大島 右邊
外 務 省	第 五三 號	配 録 件 名	發 重光 右邊

昭和 10 年 3 月 5 日 起草

電信課長

電  
報  
保  
護  
印

5 21

記帳券

(日本標準規格 B5)  
S 1.7.0.0 - 54 389

(原議用紙乙)

二八五号、基十通宜編算、上後、在欧各太公後

條系

へ電報より後

概々失せ

(二)佛印則ノ諾否 確定的ノ利用ノ上ハ 陸軍第一四一

号及第一四六号ノ趣旨ヲ電報より後

外務省

S 1.7.0.0 - 54

391

REEL No. A-1216

0517

アジア歴史資料センター



極秘

電信寫

電信寫

密

大東亞省

昭和二〇

一七七四

暗

西貢 本省

三月五日一五三九發  
六日一〇三四着

松本大使

重光大東亞大臣  
緊急、部長符號

(暹印處理問題)

タイ一 大發賣大臣死電報

第二〇六號

南大使ヨリ

印處理問題ニ付次言ヨリ詳細説明ヲ受ケタル處「タイ」一編南國ニ  
對スル關係ニ於テ氣付ノ點不取敢左ノ通

中央ニ於ケル聲明中「タイ」一編南國特ニ「タイ」國ニ對スル影響  
ヲ考慮シ安南等ノ獨立問題ニ關スル部分ヲ強調シ帝國カ情勢ノ必  
要ニ迫ラレ印ヲ武力處理セルモノナリトノ印象ヲ與ヘサル様  
慮セラレタキコト

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

392

REEL No. A-1216

アジア歴史資料センター

電信寫

尙「タイ」側ニ對スル説明資料トシテ傳印ノ不誠意不信行為ノ具  
體的事例出來得ル限リ電報相成度

大東亞省

(了)

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

393

REEL No. A-1216

0515

アジア歴史資料センター

一三七〇四  
 一三七一九  
 (昭) 昭和二十年三月五日 一五時  
 分 主 總 總

在支 谷 大使  
 在タイ 山本大使  
 在緬 石射大使

廣光大東軍大臣

印度支那政務廳重要領ニ出スル件  
 會第百四號 館長符號 大至急 國家機密扱  
 往電館長符號合第百三號ニ關シ

「印度支那政務廳重要領」二月二十六日最高戰爭指導會議報告ト  
 シテ左記ノ通り決定セラレタルニ付御答考也

電信寫

傳印度支那ニ伴フ政務廳重要領ノ本要領ノ定ムル所ニ據ル  
 傳印度支那全圖的ニ我々要求ヲ受諾セタル場合  
 (1) 日佛關係ハ引續キ共同防衛ノ關係ニ在ルモノトス  
 總督以下傳印度支那ノ統治機構ハ依然之ヲ存置セシメ以テ積極的

(東京二〇九)

我々協力セシムルニ對シ  
 (1) 再編成ニ當リ必要トナリタル傳印度支那人及武裝警備隊員ハ一般  
 人ト同様に取扱ヒ俘虜トシテ取扱フコトナシ但シ我々抵抗セ  
 ルモノハ傳印度支那局ヲシテ處置セシメ又ハ我方ニ於テ俘虜トシ  
 テ拘留ス  
 (2) 一般傳印度支那人及佛國人財産等ノ取扱ハ概ネ現狀維持ストス  
 (3) 安南屬等ノ獨立運動ニ對シテハ帝國ハ之ヲ妨害セサルモノト  
 ス  
 (4) 傳印度支那ニ在來通貨ヲ使用スルモノトス  
 (5) 傳印度支那ニ對シテ我々要求ニ應ジス武力ヲ行使スル場合  
 (6) 日佛關係ハ戰爭狀態ニ非サルモノトス但シ傳印度支那ニ既存  
 日佛關係ノ條約ニ拘束セラレタルコトナシ  
 (7) 傳印度支那以下首腦者ノ職務執行ヲ阻メザルヲ其ノ所應ハ等メ  
 テ尊重スル  
 總督府下各機關ハ之ヲ活用スル也

(東京二〇九)

(イ) 佛印軍人、武裝警察隊員ハ武裝解除シ抵抗スルモノハ之ヲ俘虜トシ否ルモノハ威嚇可ク之ヲ再編成ノ上之カ活用シ圖ル

(ロ) 佛國人及佛國人財產ハ之ヲ敵國人及敵國トシテ收捕ハサルモノトス。但シ作戰上特ニ必要アル場合ニハ我方ニ於テ財產ヲ管理シ居住、行動等ニ制限ヲ加フルコトアリ

(ハ) 第三國官憲及第三國商人ノ收獲ハ適當リ現狀ヲ變更セサルモノトス

(ニ) 印度支那管理ニ伴ヒ安南國、「カンボジア」國及「ルアンプ」ラズン「國」ニ於テハ此等諸國固有ノ統治機構ヲ尊重シ我方ノ内閣指導ノ下ニ適當其ノ統治ニ任セシム

佛國直轄タリシ地域ニ於テハ軍政ヲ施行ス但外部ニ對シテハ其ノ宣明示スルヲ避ケ日本軍ニ於テ一時其ノ行政ノ管理ニ任スルノ範圍ヲトスルモノトス

印度支那全域ニ亘ル共通事項ニ付テハ適當リ我方ニ於テ之カ實施ニ任ス

東京11023

(三) 安南國等ノ獨立ニ關スル指導ハ左記ニ準據ス

(1) 適シ安南國等ヲシテ自發的ニ佛國トノ保護條約放棄等ノ舉ニ出テシメ獨立國格ノ事實ヲ闡明ス

但シ具體的獨立施策ニ付テハ作戰ニ支障ナキ範圍ニ於テ之ヲ行フモノトス

(2) 安南國等ノ獨立的地位ノ向上支援ニ當リテハ居住民ヲシテ積極的ニ我ニ協力セシムルヲ以テ根據トシ特ニ民族意識ノ培養ヲ計ル

(3) 安南國等ノ獨立承認ノ時期、方法等ニ關シテハ中央ニ於テ別ニ定ム

(4) 證券銀行ハ我方ニ於テ之ヲ管理シ商業通貨ヲ使用ス

但シ所獲ニ應シ當利の國庫券ヲ併用スルコトアリ此ノ場合ハ兩邊進出之ヲ開放スルモノトス

經濟政策ハ自給自足態勢ノ強化ヲ第一義トシ併シテ現地民生ノ維持ヲ圖ルヲ並置トス

東京11023

電信寫

三三一一  
八八六六  
二二九九  
九五三九  
昭和二十年 五月 六日 九時 七分 南 啟

在 函 實 松 本 大 使

御印傳受附ノ場合ノ重寶ニ關スル等  
第五九號 館長符號、大蓋金、國家機密故

往電第三八號ニ關シ

總務ニ對シテハ貴大使ヨリ貴電第二二號ノ三ノ通武裝解除ノ點ヲ  
明カニセラレ度キモ貴電第二二二號ニ對シテハ(形式ニ付テハ)當方  
トシテハ無下機關及親任民ニ對スル存告トスル方可ナリト申考ス  
ハ對外關係ヲ考慮シ左ノ通修正スルコト適當ト認メラルルニ付右  
破御取付アリ度(陸軍ト關係済)  
「御印ノ防衛ヲ日本軍ニ委任スル目的ヲ以テ日本國政府ノ要求ヲ  
答レ」トアリ「御印ノ防衛ヲ一層強化セントスル日本國政府ノ  
要求ヲ答レ」ト修正シ其ノ次ノ「總務ノ防衛ヲ一層強化セントスル  
日本國政府ノ要求ヲ答レ」ト修正ス

東京三〇九

S 1.7.0.0 - 54 399

通貨ノ放出ハ極力之ヲ抑制ス  
備考 廣州灣租借地ニ於ケル政務處理ニ關シテハ本領領ニ準  
本電宛先 支、「タイ」ス、編大

東京三〇九

S 1.7.0.0 - 54 398

REEL No. A-1216



(分類)

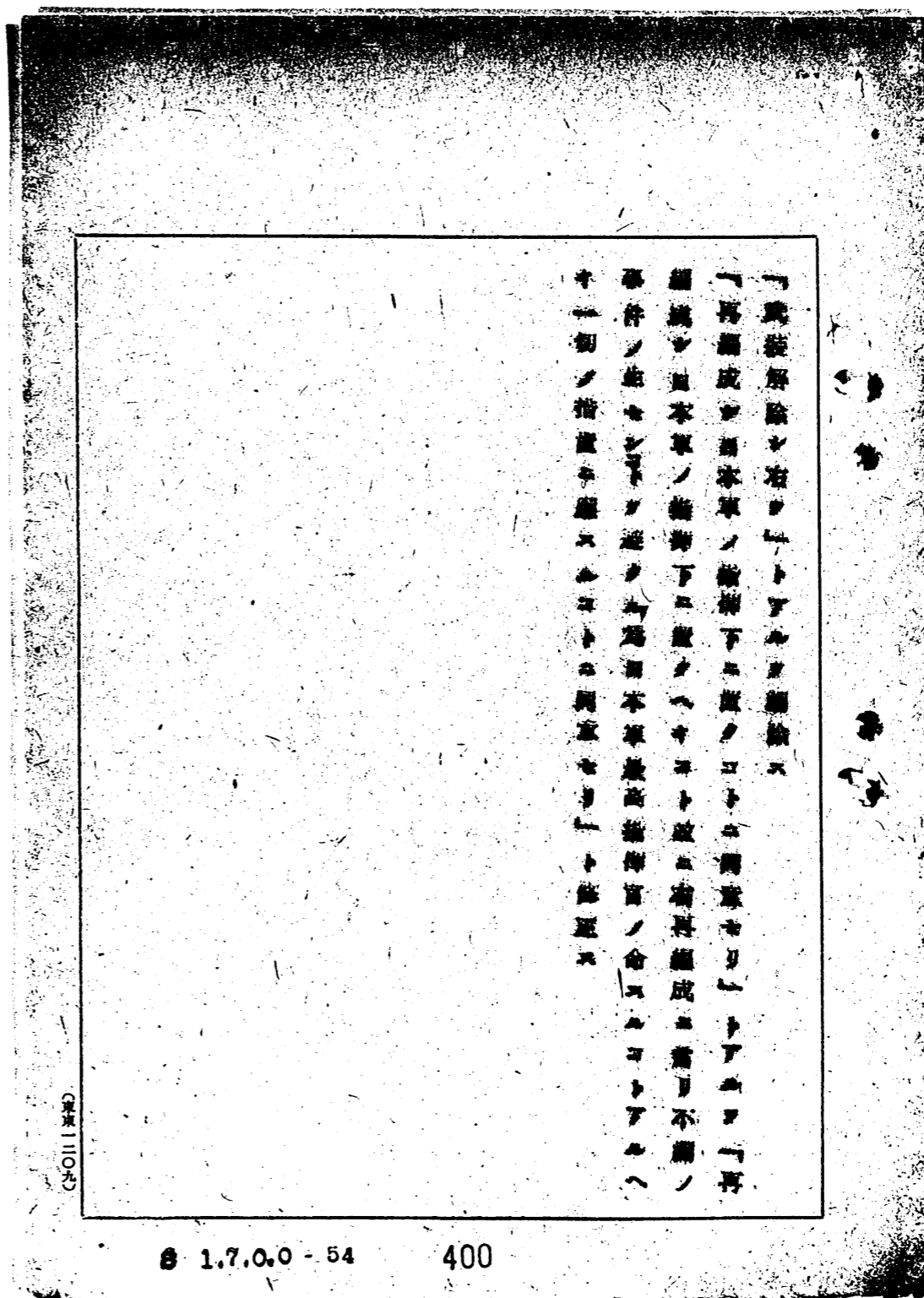
5

電 信 案	外 務 省	大臣宛 在能 大使宛 電報才一五 一號驛尾	(贈)	電送第 3680 號	主管
			昭和 20 年 3 月 1 日 時 00 分 發	主任	
			第 二 四 號	件 名	宛
				配録件名	發
					在 西 貢 松 本 大 使 重 光 大 臣
					昭和 20 年 3 月 1 日 起 草

電信課長  
川俣  
發電係

6 33

(日本標準規格 B5) S 1.7.0.0 - 54 401



S 1.7.0.0 - 54 400

REEL No. A-1216









(分類)

電 信 案	外 務 省	在任 大使宛 電報 才三 五二 号 騎電	電送第	3079	號	主管
			昭和	3月	8日	時
		件名	松本 大 使	西貢	主任	
		記録件名	重光 大 臣			

第 二 三 號

昭和二十年三月六日 起草

電信課長 川口 電保

6 32

(日本標準規格B5)

1.7.0.0 - 54

407

電 信 案	外 務 省	在任 大使宛 電報 才三 五二 号 騎電
-------------	-------------	--

上表  
折込  
電報  
才三  
五二  
号  
騎電

(日本標準規格B5)

1.7.0.0 - 54

406

REEL No. A-1216

(分類)

電 信 案	暗	電送第	3687 號	主管	
		昭和	20 年 3 月 6 日	時 30 分發	
外 務 省	件 名	宛	西貢 松本大使 南無南台大使	主任	昭和二十年三月六日起草
		件 名	在北平仙國大使館(本国上) 時給二回之件		
	後第	二九二 號			
	配録件名	發	重光 大臣		

主任 重光 大臣

電信課長

記帳済

3683  
3684  
3685  
3686  
3687

主任

昭和二十年三月六日起草

6 31

(日本標準規格 B5) S 1.7.0.0 - 54 409

(分類)

電 信 案	暗	電送第	1681 號	主管	
		昭和	20 年 3 月 6 日	時 00 分發	
外 務 省	件 名	宛	西貢 松本大使	主任	昭和二十年三月六日起草
		件 名	仙印 処理		
	第	二五 號			
	配録件名	發	重光 大臣		

主任 重光 大臣

電信課長

記帳済

在松本大使館在松本大使館電報第一号号轉電

主任

昭和二十年三月六日起草

6 35

(日本標準規格 B5) S 1.7.0.0 - 54 408

REEL No. A-1216

極秘

第二部長

電信寫

電信課長

大東亞省

昭和二〇 一八一八 暗 河内 三月六日二六〇〇發  
本省 七日一七二〇着

電光大東亞大臣

西村事務所長

(館長符號。大至急)

(佛印處理問題)

本日發西大宛電報

第一一號

五日前任セル楊橋翁持參ノ書領及報告ニ依リ委給了承セリ閣下  
察本總領事段々ノ御奮闘感佩ニ堪エヌ最近二回三回司令官ト全談セ  
リ司令官ノ談話中左ノ諸點御參考迄

一 軍ハ計畫ト準備ヲ完了セリ當初純然タル奇襲計畫ナリシカ最近  
交渉力先行談判ナル旨連絡アリ計畫ノ立直シヲ爲セリ

二 事務ノ拾收ニハ軍ノ外官氏ノ助力ニ依ツ所大ナリ軍ハハハテ  
之カ爲困難性ヲ増シタルモ其ノ奮勵ニ自信アリ

東京 四三七

B 1.7.0.0 - 54

410

REEL No. A-1216

0530

アジア歴史資料センター

極秘

電信寫

大東亞省

ハス目氏ニ寸二分ニ手腕ヲ發揮シテ貫フ積リニシテ之カ青年將校  
 へノ徹底ニ努力スル所存ナリ  
 三 庭野發勳ニ呼應シ雲南國境ニ集結ノ重慶軍カ印支ニ進入シ來ル可  
 能性アリ此ノ場合軍人直ニ之ト對戰姿勢ニ移行スヘシ其ノ場合務  
 如何ニスルヤニ心ヲ痛ノ居レリ  
 四 雙湖ハ六、七、八、九日ノ内ト指示ヲ受ケアリ之實電館長符號  
 一 三 雙湖ノ電報命令ト參謀長ニ聯絡濟  
 尙今次參謀長ニ際シ在留邦人保護ニ付テハ收容態勢一今倭持參ノ在  
 留保護措置實際ニ依ルマ執ルコトトシ其ノ前提ニテ兵ノ配備モ  
 決定シアルモ司令官及參謀長ヨリ聯絡アリ當方諸般ノ手配極秘裡  
 ニ略々完了セリ一般邦人ハ稍冷靜ヲ取戻シ一三日來訪ノ朝日新聞  
 公文ハ西貢ヨリ河内ニ來リ當地邦人ノ冷靜ナルニ拍子被ケノ感ナ  
 リト語レリ一タル感アレト西貢ヨリ來ル軍人及一般人ノ言動ニ依  
 リ神經ヲ尖鋭化サレツツアル狀況ナリ

大東亞省電報

東京 四三七







電信寫

一四〇一五  
 一四〇一六  
 昭和二十年三月八日 一四時 分  
 支

在廣東 小洋事務所長代理  
 廣州海租地ニ關スル件  
 第一編 館長符號 緊急  
 館長符號在電合第七編ニ關シ  
 佛印當局カ帝國ノ要求ニ應セサル場合廣州海租地ノ處理ハ佛印  
 ニ準シ單ノ管理下ニ置カルヘキ處國民政府カ自主的ニ同地行政ノ  
 接收ヲ希望スルニ於テハ帝國トシテ之ヲ承認スルニ關シテハ佛印  
 ノ準備完了ヲ俟テ廣東省官廳ヲ廣州海租地ニ派遣シテ行政ヲ行ヘシメ  
 度キ所存ナルニ付右官廳カレ度  
 支ヘ轉電セリ

8 1.7.0.0 - 54 417

松

一三九三五  
 一三九三七  
 昭和二十年三月七日 二〇時一〇分  
 在函貢 松本大使  
 佛印處理問題  
 第四〇號 館長符號 緊急  
 貴電第二一號ノ一ニ關シ  
 先方カ入時間内ニ受諾セサル場合ニハ貴大使ニ於テハ時間ノ猶豫  
 ノ與ヘ一應引揚ケラルル處本件猶豫期間中佛印ニ自由行動  
 ノ許ストキハ其間對抗措置ヲ講スルヲ得ヘキヲ以テ之ヲ防止スル  
 タメ必要ニ應シ軟禁、通信遮斷等ノ措置ヲ講スル要アリトノ軍側  
 意見ニシテ右ハ作戰上尤モナル次第ナルニ付先方ニ猶豫期間ヲ與  
 フル場合ニ於テモ貴大使ノ行動ニ付テハ右作戰上ノ要請ヲモ考慮  
 方御配慮アリ度ク現地草ニ於テ希望スルニ於テハ猶豫期間中モ貴  
 大使ニ於テ引續キ殘留ノ上先方ノ措置ヲ控制スル等適當ノ方法  
 付研究アリ度

8 1.7.0.0 - 54 416

自一四二二一  
一四二三二  
昭和 廿年 三月 八日 十四 時五十分  
主 總務

在北京、上海、廣  
各大使館事務所長  
電光大使館大臣

電信寫

合第七號 局長海軍 緊急 國家機密  
一 帝國ハ印度支那ニ於ケル諸般ノ情況ニ鑑ミ不日佛印總督ニ對シ  
所望ノ要求ヲナス意圖ナリ右ニ伴ヒ在支佛國官民軍隊糧食等ノ  
取扱使館ハ本大臣發支宛電報第一五號及第一五號ノ添リニシテ  
貴官ハ在支大使ヨリノ指令ヲ俟ツテ現地陸海軍ト協力且ツ適時  
支那側ヲ指導ノ上本件ニ關係セル諸般ノ處理ニ遺憾ナキヲ期セ  
フレ度一本件ハ最高度ノ國家機密ニ屬ス  
二 尙本大臣發支宛電報第一五號「在支佛國官民糧食取扱使館」ノ  
一ニ關シテハ佛印側カ帝國ノ要求ヲ受諾シタル場合軍隊及武裝

東京二〇九

團體ノ處理ハ佛印ニ於ケル場合ニ準スルコトナリ居ル處佛印  
ニ於テハ此場合軍隊等ハ再編成シ右ニ依リ不愛トナリタル人員  
ハ一數人ト同様ニ取扱ヒ我ニ抵抗セルモノハ俘虜トシテ抑留ス  
ル豫定ニシテ又ニ關シテハ帝國ノ要求ヲ受諾セサル場合ハ在  
支佛國軍隊及武裝附屬ハ之ヲ武裝解除スルコトトナリ居レリ爲  
余  
本電宛先 北京、上海、廣  
北京ヨリ天津へ本大臣發支宛電報第一五號ト共ニ可然キ方法ニ依  
リ傳達セキアリタル  
在支大使へ轉電セリ

東京二〇九